

2023年5月実績概要（メモ）

（2023. 6. 23）

内外需とも持ち直しの動きは見られず、エチレンをはじめ各誘導品の生産は多くが前年を下回る。

1. 生産動向

イ) エチレン 406,400トン

前月比 ▲ 9.5% (▲42,500トン)

前年同月比 ▲11.8% (▲54,500トン)

生産増減に係る諸要因	＜前月比＞	＜前年同月比＞
日数増減	+ 3.3 %	—
定修要因等	▲ 9.0 %	▲ 4.6 %
能力増減	—	+ 0.4 %
稼働率変動	▲ 3.8 %	▲ 7.6 %
生産増減率	▲ 9.5 %	▲ 11.8 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月84.5% → 当月81.6% ← 前年同月87.4%

定修プラント：前月 1社1プラント → 当月 1社1プラント ← 前年同月 2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数増加や定修規模差から SM、アセトアルデヒド、AN、SBR、BR などの8品目がプラス。HDPE、PP、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMA モノマー、トルエンなどの9品目はマイナスとなった。

前年比は、稼働率要因や定修規模差等から、LDPE、HDPE、PP、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMA モノマー、AN、SBR、BR、トルエンなどの15品目はマイナス。アセトアルデヒド、キシレンの2品目のみはプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、稼働日数の増加があったものの、HDPE、PS は定修規模の増加、PP は、定修規模の増加と稼働率要因からそれぞれマイナスとなった。

前年比は、生産調整下のもと、主に稼働率要因から、LDPE、HDPE、PP、PS ともにマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドの持ち直しの動きや、国内の各製造業でも生産の増加予測が多くなっているが、生産活動のマインドとしては、海外景気の下振れ懸念から弱気の面も窺われている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、連休に伴うユーザー側の稼働日数の減少もあり、LDPE、HDPE、PP、PS ともに減少することとなった。

前年比でも、4樹脂ともにマイナスとなり、昨年の9月以降、4樹脂揃って前年割れが継続しており、数量面での持ち直しの動きは見られていない。

用途的には、当月もかろうじて前年を上回ったのは、PP の輸送機械向け部材や PS の健康飲料向け容器等の限定した分野に限られており、これ以外では多くが前年割れとなり、特にフィルム分野等の各種の包材向けや雑貨用途の出荷の減少が目立つかたちとなった。

ハ) 輸出

海外の樹脂需要も依然として、低迷が続いており、前月比では、LDPE、HDPE、PP、PS ともにマイナスとなった。前年比は、LDPE、HDPE は前年の輸出がやや落ち込んだため、比較上プラスとなったが、PP、PS はマイナスが続いている。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、PP、PS は増加し、HDPE のみは減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE は低下、HDPE、PP は前月並み、PS はやや上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PS ともに高めの水準が続いている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		4月末	5月末
LDPE	+ 5,000	3.9	3.6
HDPE	▲ 5,200	4.2	4.2
P P	+ 5,400	3.2	3.2
P S	+ 3,000	2.0	2.1